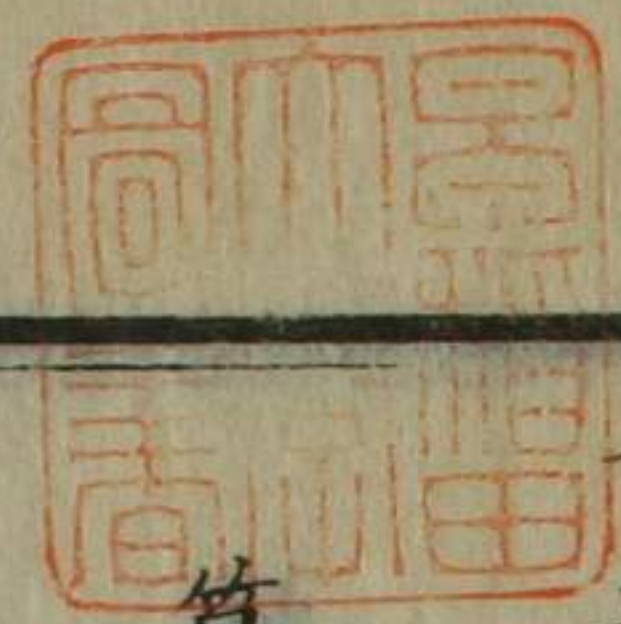


門中武
新 431
卷 2



七新藥中卷目次

第二篇

解血變質之藥 中

硝酸銀 晶硝銀

硝酸銀一凡の功用利害

硝酸銀中毒の救療法

附録

塩酸亞銘

第三篇

新藥中卷目次
尚新堂藏

解血變質之藥 下

酒石酸鱒鈦

酒石酸鱒鈦一凡の功用利害

酒石酸鱒鈦の製劑

○第一 催吐酒

○第二 發疹膏

第四篇 補血強神解熱之藥

規尼

規尼一凡の功用利害

規尼の製劑

○第一 純規尼 ○第二 醋酸規尼 ○第三 硫酸規尼 ○第四 燐酸規尼 ○第五 酒

砒酸規尼 ○第六 沃顛酸規尼 ○第七 青酸規尼 ○第八 鎳加酸規尼 ○第九 鎳加酸規尼 ○第十 鐵加酸規尼 ○第十一 鐵加酸規尼

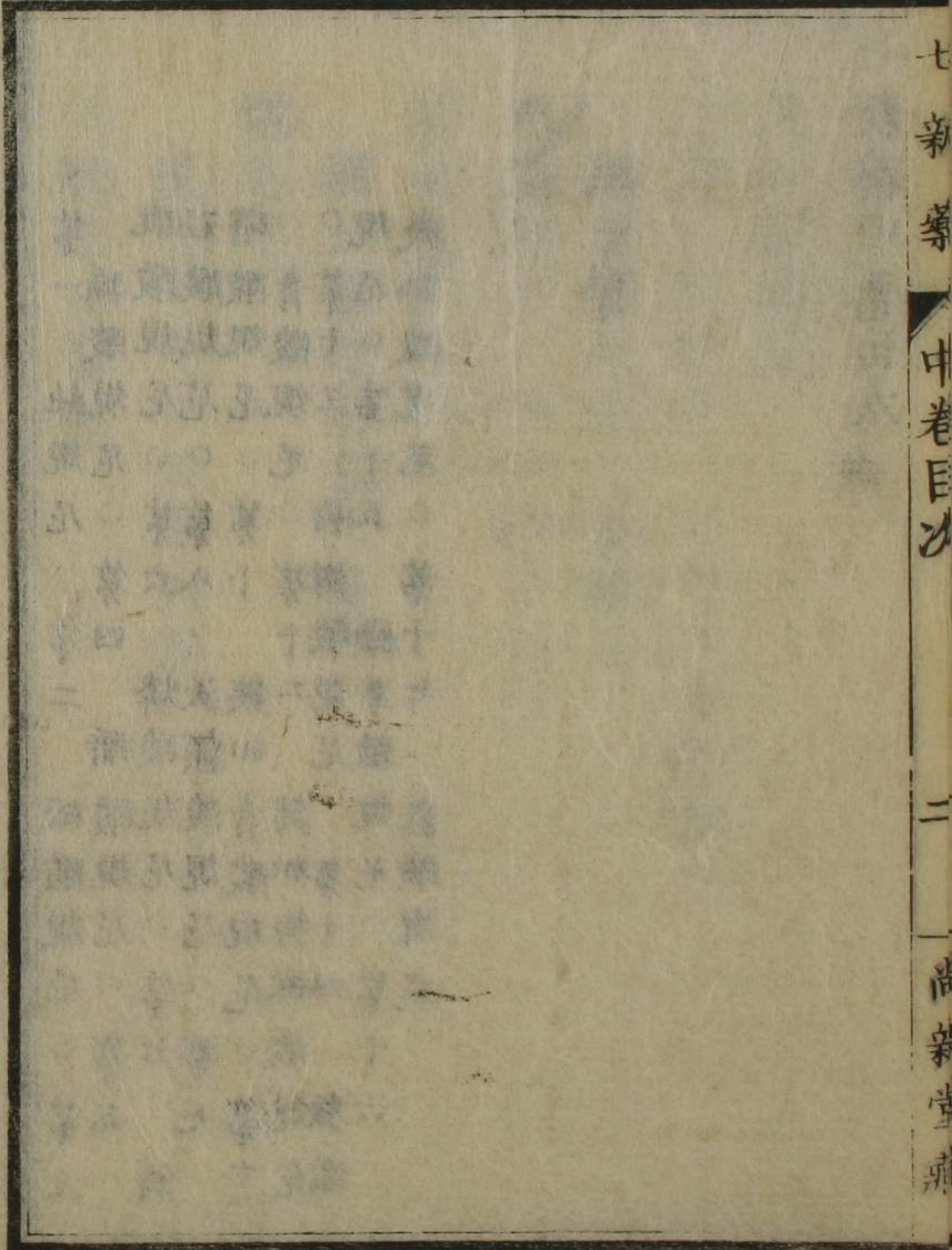
硝酸規尼 ○第十二 鐵加酸規尼 ○第十三 鐵加酸規尼 ○第十四 鐵加酸規尼 ○第十五 鐵加酸規尼 ○第十六 鐵加酸規尼

幾那酸規尼 ○第十七 鐵加酸規尼 ○第十八 鐵加酸規尼 ○第十九 鐵加酸規尼 ○第二十 鐵加酸規尼 ○第二十一 鐵加酸規尼

附錄

撒里質

七新藥中卷目次 終



七新藥中卷

佐渡 凌海司馬 虧公 損 著
阿州 侍醫 關寬齋 校

第二篇

解血變質之藥中

硝酸銀 ニットラース。アルゲンティキウス。ニットラース。アルゲンティム。アルゲンティム。
此藥の醫用は供する者二般あり。一ハ硝酸を以て純銀を溶解し。之と結晶せしむる者ありて。此

品持り内用小供し。名けて晶硝酸銀と云ふ。一ハ其既小結晶せる者と再び溶解し之と小管小注ひて。以て其形を取らしむ地獄石即ち是なり

第一 内用品

晶硝酸銀 ニトラス、アルゲンチキス、キリス
タリサチキス

晶體四角或ハ六角整齊ならん。色なくして透明かり。味苦くして嘔をへく他の礦物の如し。氣を見て變せん。日光又逢て速小黒色小變す。同量の冷水。半量の温湯小溶解し。又酒精も克く溶解す。火と點をまひ焚へて爆裂し。只之を温むまひ

熔化して流動を

第二 外用品

熔硝酸銀 ニトラス、アルゲンチキス、フェリス、アルゲンチム、ニトリキム、エシム、オースチキム、ムリナーレ、ラピス、インフルナリス

地獄石の腐蝕錠

長圓管状小して灰白色。中心線状の襍體をかき。光輝小觸きて黒色小變るるを猶前物の如し。故小共ニ黒紙を包纏し。さら瓶中ニ貯ふる。其餘の性質ハ皆前物ニ同し。只冷水小溶するの量稍大なるのみ

硝酸銀一凡の功用利害

第一 健康作用

以○小量を用ひて胃腸に入まへ初め先つ其中小在る所の蛋白質と相結んで一種の機生塩と作り遂小塩酸小合ふて塩酸銀とかり之小由て其効分の發達と妨ぐ故小動もすまへ大量と服するも更小較著の患害と見こさる者あり。ブル○五○人の説小曰く予嘗て一次小十五○人の硝酸銀と丸劑○製し之と用ひて更○患害と發せむ五○人と清水小溶し用ひて危劇の諸症と見こはしと見たり是れ溶劑○其質甚○稀薄なまへ機生物

小會合するも敢て塩と作るも能○は以て十分の効力と發せまへかりと蓋し或○然らん○小量と長服をまへ別小患害か○と雖とも皮膚黒色と見こを不至る蓋し此奇性○硝酸銀○什○縻○の變革と血液○致す小由る所あるや尚未○詳解と得とカラ○ムル○人の硝酸銀と以て成る所の機生塩○皮膚小分佈するの際○光輝小逢て以て黒色と生する○由ると謂ふと雖とも若○果○て然らへ分泌排泄の機何○之と驅除せす○て長く黒色と皮表小止む○の理あらんや此説信

難しといふ。諸酸硝酸酒石酸等。克く此黒班と除くと稱をまとも。之を實驗して良効ある者ハ沃顛耐及ハ青酸鹹カリ

〔呂〕大量を用ひて吸収さるゝと。速小且つ他物ニ抱合するの機會をけれハ。局處を刺戟し之を腐焦し。悪心。乾嘔或ハ嘔吐。泄瀉を發し。神経系小甚しく侵掠さるゝ。肝あり。血行之り爲小良らハ動脈の血。動もすまハ闇黒小變し。精神沉鬱苦悶し。四支麻木せるり如く。呼吸困厄し。眩暈自眩。痙攣。搐掣を發し。遂ニ窒息小由て斃る。○死屍を剖驗

をる小胃腸の粘液膜。處々小白色の凝固し。乳汁の如き者あり。或ハ其膜腫大して恰も焦灼するり如く。又ハ既ニ破潰して孔穴を爲る者あり。口内。咽喉。食道の粘液膜も亦斯の如し。然まとも硝酸銀の人體を害するや。常ニ甚と一様ならハ。其製劑の各異さる小從つて違ハ。又其死するこの遅速小由て違ふり故ニ。爰ニ記する所の事件を以て。每常不變の確狀と爲るへり。總て硝酸銀ハ機生體小抵觸して。速小其部の蛋白質と結ハ。胃小入まハ。其中の塩酸と相合ふて。

以て一種の塩とふる。之を外用して大功ある所
以の理も、亦蛋白結合より外からさるなり

第二 醫治功用

〔以〕亘古より胃脘痛及び胃瘧小用ひて、イッソシ
及ハラーテシリト共ニ人名大小硝酸銀の効ある
と稱せり。輒今小至つてハ、腸管の冒寒性及ハ焮
衝性の諸病。下利と兼ぬる者。腸血腐敗熱。亜細亜
霍乱。慢性下利。胃の潰瘍。胃軟化。白帶下。義膜咽喉
焮衝。鵝口瘡。小之と稱用を。然まとも其功を致ハ
の理小於てハ、尚疑團の中小在り

〔呂〕諸般の神經病。殊小其症間歇ある者。舞蹈病。癩
癩。喘息。百日咳。小効あり。而して癩癩ハハ克く謹
慎して之を用ふまへ。從前諸般の藥劑を用ひて。
治せざる能まざる者も亦治せたり。實小癩癩の
妙藥と稱して可なり。然まとも此方ハ百法寸効
ふとの症のみ用ふへく。且つ用ふ臨んで極め
て小心翼々たらんと要を。否らされハ動もす
まハ大害と惹くをあり

用法ハ八分ハ一至半ハと一日數次用ひ。漸次
小増加して二ハ又至る。丸劑を最も良とん。且つ

之を用ふるの間ハ塩味を避くへし。是れ其用藥
と結んで塩酸銀を作り。以て効分の發達せさら
んこと恐まひかり。之を配するハ蜀葵根末。甘
草末。亞刺伯膠。白糖。蒸餅母等と以てす。尤の方最
も良かり

方

晶硝酸銀

三ハ清水少許
溶解する者

甘草末

半

甘草膏

適宜

右研和して三十九と作り一次小二九つ、一

日三次

硝酸銀ハ之を外用小供をれハ。其大功實正切
適當小して。外用の一大良藥とる事ハ。猶他の幾
那。阿片。沃顛。銻石等の内科に於て。必須小して。關
如ををうらさる如し。西國の諸賢皆曰く。若
し硝酸銀ふりせハ。吾ま外科とる事と欲せ
むと

硝酸銀を外用に供するハ數般の標的あり。故に
或ハ之を刺戟衝動の劑とふし。或ハ之を解血變
質の方と作り。或ハ之を腐蝕焦燥の藥とふし等。

病は従つて各異なり。然るとも腐蝕劑として之と用ふまゝ。其効實は諸藥小冠とりと謂ふへし。但藥力の深達と要するの地不至りては少く他の峻腐劑を譲るゆゑ

〔波〕疣瘻瘻肉等の癌毒小由らばして發する者。小静脈怒脹する者。母班等と。消除するを爲す硝酸銀を用ひて効あり

〔仁〕又創若くは潰瘍。努肉と生じて其痊癒を妨げらるる者。下疳の初發。毒未と遠及せざる者。瘰癧。角膜の潰瘍。耳内の諸病。骨潰瘍。乳房及び唇皮の

剥脱。子宮及び腔の潰瘍。寒腫。陰囊の水腫。及び其他外藥と施し得べきの部。潰瘍を發する者。注射劑とし。或は洗滌劑として良功あり

〔保〕突創。及び咬傷。創殊は其毒獸の咬傷小由る者。水蛭創。或は抜齒小由て發する劇き出血。又効あり

〔邊〕諸般の組織將小焮衝を發せんとする者。直らみ之を用ひて其部を焦燥して効あり。又其焮衝既小慢性小變し其症頑牢小して治し難き者。小効あり。故小咽喉焮衝。義膜咽喉焮衝。鴛口瘡。百

日咳。口内の焮衝。流涎。齒齦の壞血病。橫痃。陰囊焮衝。劇盛の眼焮衝。眼瞼焮衝の粘液漏と兼ねる者。梅毒性の眼焮衝。急慢二性の皮膚焮衝。凍瘡。輕易の火傷。標疽。打撲傷。皮疹。錢癬。梅毒性瘡疹。頭瘡。苔癬。角膜水泡。白腫。關節の焮衝。諸病夢中遺精。寢中遺便。痲疾。後痲等。不用ふ。○總て此般の諸病。硝酸銀を用ひて大効あるに善く其量と詳し。良く其法と辨とるふ所あり。故に病を從ふて其量の大小と議とへし。

〔登〕硝酸銀の神經の知覺機を進する者。神經痛。痒

癢等。蒸劑として用ひて効あり

〔知〕尿道。食道。耳孔。鼻竅。直腸等の狹窄。焦燥方として用ひて効あり。而して今人の説は曰く。硝酸銀の諸道の狹窄を治するの功ありと雖とも。尿道の狹窄に至りては止むを得ざるの外に之を用ひざるを佳なりと云。如何と云れは尿道の本是を脆軟柔潤の地。若し之を焦燥をまは或は硬痂と結成し。大小通利を妨碍と生をれはなる。硝酸銀の用法は疾痰を從つて各異なり。又其功の輕易ならんと欲する者。熔硝酸銀を用ふ

る小適せと唯晶硝酸銀と用ふるを良と云○溶劑ハ大抵二匁の熔硝酸銀と一匁の清水を溶すると要と。是き其小量ふる者ふして其効も又緩かり。以て眼焮衝皮膚病下疳義膜咽喉焮衝等不用ふへし。若し劇甚の刺戟腐蝕の効を取らんと要せし。四十匁至六十匁と一匁の清水を溶解せし。之と灌腸劑と作すし。半匁至五匁と一匁の藥液を和し。軟膏と作るし。一匁至十匁と一了の脂膏を混じ。若し又局處の刺戟甚しくして堪へ難き者ハ。食塩の溶劑或ハ塩酸能く之を寛

解せへし。硝酸銀と外用するの法ハ。疾病の各異あるに從て。其宜しきと撰りさるへりらと雖とも。又其定規あるにあらん。故に今記して以て用者の撰舉ふ供を即ち以腐蝕の功と要する者ハ。先づ其單質を冷水に濡し。且つ又之と施すへきの地とも濡して。後之と抵觸せしむ。呂小結癬。斑點。水泡等ハ之と施すの前。先づ能く其部を洗滌をへし。波腐蝕法を行ふの後。繃帶と施すし。綿撒糸と良と云。若し患部を刺戟するの恐きある。單蠟

膏と布帯ハ攤ハ之と掩ハ一ハ仁腐蝕の効深達
せんハと望む者ハ。屢反復して之を施ハ。或ハ散
末とハかして。其上ハ撒布し掩ハふハ硬膏と以てを
保患部ハ膿ハ或ハ粘液ある者ハ。海綿と以て淨刷
し。而して後之と施ハと要を邊胼胝及ハ瘰癧下
疔咬傷等ハ注意して悉く其部と焦燥すハ。一
點も殘遺の處あらハひハるハとハかりハれ登眼瞼の焮
衝皮表の焮衝及ハ粘液膜の焮衝ハ。單質と以て
只其外表ハ抵觸ハをハへハく。角膜の深潰瘍及ハ腔尿
道等の潰瘍ハハ。小刀ハ又て單質と削り細め以て

之と腐蝕をハ一ハ知關節の焮衝。白腫。横痃。陰囊焮
衝等ハハ。初め先つ表皮と濡ハし。而して後單質と以
て之ハ又觸ハるハをハ利風濕毒ハハ。發泡法と施すハハ。硝
酸銀と用ハふハまハい。其力芫菁より劇ハくハて効も
亦強ハしハとハん。即ち單質と水ハ又濡ハし以て患部ハ又抵
觸ハるハをハ一ハ二少時ハハ。後單蠟膏と以て之と
掩ハふハ奴尿道狹窄ハハ。硝酸銀と塗ハりハるハ紙捻子
と用ハふ。但し爰ハ又ハ。晶硝酸銀と良ハとハん留出血と
留ハむハるハハ。火酒燈ハハ。硝酸銀と溶解して之と用
ふハ遠慢性の眼焮衝ハハ。噴藥と用ハふハるハ人あり。其

硝酸銀
尚新堂藏

方即ち硝酸銀一分。莖菜根末三十分。龍腦一分。右
調勻して以て嚏薬とせし。和丹毒及ひ其性の諸
病の表皮と洗滌するの後、特小其焮衝の部小
抵觸するのみならん。又兼て近圍の部も共之
と焦燥せんことを要す。加咽喉の所患肺勞氣管支
の焮衝等小ハ。七十分の白糖小研和して極精細の
散末とせし。小管と以て之と噴入して以て其部小
抵らして。與白帶下及ひ子宮の諸病小ハ。水筒と
以て其溶劑と射注し。太痲疾小射注劑として用ふ
る小ハ。五ハ至十ハと一弓の清水小溶し。先つ患

者として尿と利せしめ。而して後之と射注し暫
く寢床小安臥せしめ。若し尿道の疼み甚しくハ
再び寒水と射注し。或ハ其疼みあらんと恐き
ハ。初め先つ溶劑小阿片耐と加へ用ふ。和慢性の
膀胱焮衝小ハ。硝酸銀の緩溶水と射注し引溺器
と壓重して其流出と妨げ。中ハ留むるを一小時
からしむ。曾輕易の湯火傷小ハ。之と膏小作り施
すと要す。即ち硝酸銀十ハと二弓の脂小研和し。
綿布小攤して之と貼し。或ハ一弓の硝酸銀と適
宜の水小溶し四弓の脂小研和して之と用ふ。都

皮表手指等の硝酸銀より由て生じる黒點ハ、沃顏
嫌の溶劑と以て洗滌し能く除くを。又硫酸嫌
青酸嫌。消酸及ハ外瀆水等皆良稱あり

米利幹新紙ヨルグ曰く。安政元年西國紀元一千八百五十五年紐

約尔格名地の一醫名ゲレイ名ン硝酸銀と用ふる

一新法と創め。以て大ニ名譽を得たりと。其法

ハ即ち柔脆ふして撓屈し易き一箇の管と。氣

管支。或ハ肺中ニ嵌入し。以て硝酸銀と此中ニ

輸り。喉頭。及ハ氣管支の焮衝。或ハ肺勞の膿囊

と作ら者と焦燥して。以て大敷と策するなり。

蓋し此般の術ハ實ニ新奇ニ出つると雖とも。
豈損害か」と云こんや。吾人謾ふ之ニ擬する
ことかくんハ是れ可かり

硝酸銀中毒の救療法

硝酸銀の毒と解する者ハ、塩酸灰塩。殊ニ食塩の
溶水かり。其理蓋し此両品の硝酸銀と相合ふて。
共ニ塩酸銀とかり。一箇の溶解せざる塩類と作
るニ原く者とい。○硝酸銀溶劑の毒ニ中る者ハ
ハ、食塩と用ふるも更ニ功をかへりら。此時
ハ唯粘滑緩和の藥液と與へ胃腸の焮衝と處置

とると要とん

附録

塩酸亜鉛

ヒュリアス、シシシ〇シレキム、ヒュリアチキム
〇ゴロリ、デム、シシシ〇シレキム、ゴラテム

塩酸亜鉛ハ硝酸銀と共に、外科の稱譽を得る者小して、其用頗る廣汎なきハ之と不講小委ぬるらば、蓋し此薬ハ藥効深達と望むの地小的應へ、能く前薬の缺事と補綴とる小足る者とり

塩酸亜鉛ハ炭酸亜鉛と海塩酸小溶開し、而し

て之と蒸化とるよ由て成る者小して、白色晶體の粉末かり、氣を見て流化し、火小入て白煙と發し、香臭共小なく、味發小して鹹、不快の鑛氣あり、冷水及ひ酒精と容易小溶化を、局處小用ひて峻刺戟、収斂、變質の作用あり、其製純なきハ劇腐蝕の性と見こし、動物體の蛋白質及ひ膠質小親和し、之と相結て不化の結合物と作り、體質と侵ると極めて甚しく、其力竄透小して、其効徹底深達を、發する所の痂皮ハ白色小して厚く、五六日の後良膿と醸して自ら脱

離し其部速小癥痕と遺を
此藥ハ内服して他の亞鉛諸製劑の如く解凝
變質の効あり。分泌排泄の常度より越る者と調
理し。養育生植の器具病機の變調と受くる者
と故復を。故小神経系の諸患癩癩舞蹈病。神經
痛。顔面痛。胃腕痛。血質不良。及び之より發する
諸病癩癩。癌腫。梅毒。慢性頑固の皮膚病。癩瘡。疥
癬。皮膚疹等小効あり。然まとも少く其量と過
せハ。腹痛。嘔吐。苦悶。呼吸短促。搐掣。冷汗。衰弱等
と致し易けきハ。之と内服小供をること稍稀

かり

塩酸亜鉛ハ外用小由て偉績と建つるの品小
して。其効數般かりと雖とも。之と總ふる小必
そ先つ二様の標的を以て。即ち一ハ之と刺
戟解凝變質の劑とし。一ハ之と收斂焦灼腐蝕
の藥とし。爰小其用法と舉ぐれハ。以原發の梅
瘡未と數日からさる者ハ。此藥半片と糊劑小
製して瘡上小貼し。之と焦燥せしめて傳染毒
と消滅し。包莖瘡ハ之と包皮間小射注し。裸
莖瘡ハ溶劑と以て之と洗ひ。横痃ハ膏藥

と製し豆大と取て、之を塗擦し其部赤色と顯
こころの寒水蒸湯法と行ふ○痲疾の焮衝劇
き者の溶劑と以て陰莖を洗ひ、膀胱焮衝攝護
腺焮衝陰囊焮衝等、塩酸亜鉛膏と擦入して
効あり○痲毒眼焮衝梅毒性結膜焮衝より塩
酸亜鉛一匁、阿片耐一匁、清水四匁の水劑と點
入し、豆大の塩酸亜鉛糊劑と顯顯小貼上して
良功あり○**呂**後痲及び急慢二性の諸部粘液漏
ふ、ゴウヱリアト人名此藥を射注して大に其効
ありと稱す、又白帶下より此藥を莫非と和し

て挺錠と作り、之を陰戸小挿して良功あり
液諸般の續發梅毒症、經久の咽喉潰瘍骨癢腫、
骨痛、糾髮病、皮膚瘡癬及び小疹、疣瘻潰瘍等総
て梅毒に因る者へ、此藥を膏藥溶劑、蒸湯方、
含嗽劑、洗滌劑等小製し用ひて良効あり○梅
毒性咽喉焮衝、荒蕪の潰瘍と兼ぬる者へ、塩酸
亜鉛一匁と清水一匁を和して含嗽劑とし、又
塩酸亜鉛三匁、清水一匁と玫瑰蜜を和し、之を
潰瘍に塗上して効あり○**仁**瘰癧性の潰瘍、膝蓋
の白腫、腺腫、輪虫、癌腫、慢性皮膚病、癩瘡、疥癬、動

脉腫。母班。海綿腫等。膏藥或ハ擦劑と用ひて
功あり。保齒牙の潰乱。由て發せる齒痛ハ。塩
酸亞鉛の風化せる者と筆毛と以て塗上。而
後微温湯と以て口中と含嗽して良功あり。
内服。二ハ二十分ハ一至四分ハ一と。蒸餾水小
和。一次の量とし。一日四回。反復して用ふ。
且つ二ハの塩酸亞鉛。一滴の海塩酸と加ふ
る。是き其腐蝕の性と脱せしめん。爲ふり。
洗滌。蒸溺射注の方と作て。之と外用。小供する
小ハ。一ハ至六ハと。一滴至三滴の海塩酸。及ハ

一ハの蒸餾水と和をへし。膏藥ハ一刃至四刃
と半滴至二滴の海塩酸。及ハ一ハの脂。小調し。
或ハ沃顛耐と加ふるも可ふり。糊劑ハ此藥一
分。澱粉一分至三分。清水適宜と以て之と製成。
ウーストルレン氏洗滌劑と作り。之と梅毒潰
瘍及ハ慢性弛縱の潰瘍。小施して。屢大功と得
たり。其方左の如し

塩酸亞鉛 四ハ
海塩酸或ハ沃顛耐 四滴

七新藥 中卷 一六

蒸餾水 三弓

右調勻し洗滌劑とす

塩酸亞鉛の膏小作る者の其功最も緩かり。故
小之と老人。小児及ひ病後刺戟を必須とせさ
る者小用ふ。糊劑に総て之を貼るる小。初め先
つ其部の表皮を剥離せしめんことを要す。否ら
さまは其効少かり

第三篇

解血變質之藥下

酒石酸礬鉍

タルタリユス。カリコヌス。テイビキユス。タルタリユス。
ステイビアテス。オス。ステイビラカリ。タルタリキユス
タルタラス。ポッターヒ。ユト。ヲキシ。テイアン
テイモニイ。カリ。アン。テイモニイ。タルタリユム。○
タルタリユス。エメ。テイキユス
吐酒石。○酒石酸鉍。○酒石酸礬酸化鉍

酒石酸礬鉍、即ち坊間の吐酒石なり。酒石酸礬
及ひ酸化鉍より成る。故小今人此名を命じ。白色
晶體の塩ふして香臭共なく嘔をへるの礦味
あり。十五倍の冷水及ひ三倍の熱湯に溶解し酒

七新藥 中卷 酒石酸礬鉍 一六 尚新堂藏

精小の溶解せむ。灰塩。諸酸。鞣質タンニ等ハ皆銻と
して沈澱せしむ。蓋し此品の百病ハ大功あるハ
人々皆得て之を知る。實ハ其褒稱硝酸銀の外科
小於けらと同一般なり。而して諸多の銻製劑も
爰小此品の存せらる遇へハ。又之を撰用せらるの
地少しとを

酒石酸銻銻一凡の功用利害

第一 健康作用

以局處の作用ハ胃腸小入て其粘液膜を刺戟し。
之と皮表小攪布をまハ同一く之を刺戟し。炎熱。

腫痛し遂小痘瘡の如き瘡疹を發せ。又咽喉。食道
小も此疹を發せらるあり。○此藥ハ之を散若く
ハ膏小して用ふまハ。扁平小して大なる疹を發
し。之を溶劑として用ふまハ球狀小して小なる
疹を發せ。ベックスベックスステインステイン名人の説曰く。酒石酸銻
銻由て生る所の疹ハ。其中小含む所の漿液
の性質。他の牛痘と甚と相讓らハ。故又天行痘流
行の時。他又牛痘の良漿かき時ハ。正小此疹の漿
と以て人又播種し。以て其傳染を防くへしと是
を甚と疑ふへし

呂 此藥胃小入まの司發。汎發の作用相並て起る。但其劇易。用藥の多少と知覺機の鋭鈍と小應て異なり。○此藥ハ血中入るに極めて早く。且つ諸般の器具小循布する故小ヲルセフ人名ハ腦質及ハ肝臟小見たり。又或ハ之を尿中及ハ脂中小得ざる者あり。然まとも此品胃小入て什麼イカの會合とふし。血小交て又如何小變化し。諸器小循布して又何様ニ轉化するや。吾人明るに之を知るに能くす。唯其作用の迅疾なるに注目して之を推考すまハ。此品ハ胃小入て蛋白質及ハ其

他の諸品ニ遇ふと雖とも。決して之と結合するとふく。直ち小達して血中入る者ニ似たり。
渡 小量十分分一至を内服をまハ。別小較著の患狀を發するとふし。若し反復して之を用ふまハ。惡心と發し。胃腸。脾肝及ハ唾腺の分泌増進し。蒸氣。汗。尿等の排泄大ニ旺盛す。
仁 少く大量五分至を用ふまハ。上件の諸症の外。尚神經樞位の病狀第十對神經迷走小屬するの諸症を發し。即ち惡心。違和。倦勞。眩暈し。肚腹力弱く時々痲痛し。下唇及ハ下肢戰振し。舌強バり

二并藥 卷 西口發藥石 一尚行堂藏

て運動し難く心動大に減じて力なく。脈軟ふ
て徐となり。彼部小血液充積して是部血液減
少し。腸の運動増進して胆汁と交へたる水便と
瀉利を

保稍大量二至六と用ふまは即ち催吐の功あり。

此小於てや胃大に脹大し。其下口収縮し。横膈縦
緩し。食道も亦反常の運爲と起し。腹筋収縮して
胃中小在る所の物と吐出し。又腹痛して水便と
瀉下す。然まとも尚量と重ねて之と薦まは吐瀉
又發せむ。却て上件の神經血管の諸症と發す。此

小由て之と見まは。此藥胃腸小抵觸するを少な
けまは。其汎發の功逾強しと以故に催吐は此藥
の定發功とみすべし。昔人誤て之を吐酒石
の名と命し。今時尚之を循用を。大に其實小稱は
邊大量二至十以上四と用ふまは胃腸と刺戟する
を。極めて甚しく嘔吐下利し。肚腹劇痛し。患者倦
勞して百事堪へず。眩暈苦悶。搐掣轉筋。呼吸困
苦し。精神知覺を失ふて遂に斃る。又然らむして
嘔吐下痢と發せまは。神經諸症愈劇烈し。て
其死愈速なり。○ラッリ人名及人名意太里國名諸醫の

經驗説と曰く。此藥三十以上を用ふまゝ。更に嘔吐を發するをふし。死後屍を開て之を驗する。胃腸は少しも變状あるをふし。唯其生前は驗視せる所の症は。眩暈疲倦。大衰弱等ふして心動脈搏共減し。脈一小時間五十至或は六十至とふし。呼吸も亦減して一小時間十次或は十五次に至り。皮膚の温度大に減却也。

第二 醫治功用

酒石酸礬鈷の醫治功用は最も廣汎ふして。凡そ之を用ひざるの病ふし。是を其無味ふして用ひ

易さる爲のみならず。其功數般ふして能く劇易の度と殊ふをまゝあり

第一 之を内用せる由る

以此藥は胃腸肝脾は局發の効あるをふらむ。又兼て發汗利尿の効あり。故に此標的を以て之を在件の諸病に用ふ。即ち腸胃汚物の症。腸の粘液膜の冒寒症。胆汁の分泌障礙ある者。急性皮膚疹。風濕毒丹毒様癩衝等。小量を用ひ。又急性の腹水腫及び胸膜間漿液滲出の症に用ひて効あり。呼吸器の粘液膜に膿粘液等の積溜せる者あり

り。即ち之を排除し兼て鎮痙の諸方と用ひん
爲す。氣管支の冒寒。肺の風氣腫。及び水腫。氣管支
廣闊。喘息。百日咳。肺勞。氣管支焮衝。義膜咽喉焮衝
等。小用ひて効あり。ベルナルド人名の肺勞及び
喘息。小一日五分。一を用ひて。莫非の如く鎮
降の効ありと稱す。

〔波〕其鎮降寛解の効を以て。神経系及び血管系の
知覺刺衝の兩機尤進せる者。精神の病的變革と
受くる者。狂病。鬱憂病。黒胆液病。相思病。酒客。小發
する震惕譫妄。諸般の疼痛痙攣。破傷風。產毒。搐掣。

神經熱家の譫妄。正小腦焮衝を發せんとする者。
舞蹈病。間歇熱。金創等。小用ふ。蓋し間歇熱。小
量大量共。小用ひ。或ひ催嘔劑と。或ひ催吐劑
として。胃腸の汚物と驅り。神経の機力を變調し
て。以て効を奏せしむ。○腦脊髓。直下。鎮降の
効と達せしめて。以て筋肌の強く攣縮する者と
寛縱するを爲す。關節の脱臼。小用ひて。施術と容
易からしめ。又此標的を以て。箱頸腸癩。頸筋の牽
張。子宮の痙攣等。小用ひて効あり。○催嘔劑と
之を用ひて。肚腹の諸病。殊に肝臟の腫大。變質。小

効あり。又皮膚の諸病に用ふ其法十六分の一
八分の一の量と一次に服せしむ。即ち一日半分
至二分と六分至八分の清水に溶開し。一茶匙宛
之を服せしめ患者將小吐せんと欲するに至て
止む。此法は又大飲家の酒癖を斷絶せんう爲し
用ひて効あり

(三) 大量を以て血液の運爲を變革し一凡の代謝
機を變調し。以て神経血管の系統及び呼吸の諸
器に解血變質鎮降の功力を致ししむ。故に肺
衝。肋膜衝。胸膜衝。氣管支衝。關節衝。急性

風濕毒麻家に發する陰囊衝。靜脈衝。子宮衝
衝。乳房衝。眼衝。及ひ其に兼發する粘液漏。咳
血。痰血。肺の組織中より血液の滲出する者。腦中風。
腦衝。標疽等。及び其餘諸器の衝諸病に用ひて
良功あり。○此藥の胸腔諸器の衝に於ける其
功の功歴々として確指をへく。實に無比の良方
なり。而して肺衝に尤も其功を見るの病あり。
人嘗て刺絡を施せし却て其功を減ると謂ふも
のありと雖とも。是を無稽の説として信ずるに
足らん。今之を用ひんと欲せし。先初め刺絡し

七新藥 中卷 尚新堂

て適量の血と放ち。而して後一時毎小一匁至二匁と用ひ。其症劇烈なる者ハ十二時間又二十匁至四十匁と尽せ又至み。通例之小由て嘔吐。下利と發し。大ふ發汗し呼吸容易とかり疼痛減し。諸般の檢索共疾患の輕快と見る。此の如くあり漸次又其量と減せへし。若し然らばして之と用ひて疾苦少しも寛解せし。却て増重するの機あり。速小其用と停めて他の方法と投せると要し。○之と用ひて病苦ハ大ふ寛解せし雖とも。口舌焮衝して驚口瘡狀疹と發せし。明礬塩

酸。硝酸銀等。其症ハ的應するの藥方と用ひて之と治し。若し其毒ハ中る者ハ中毒の救療法と隨て之と處置せしと要し。○肺焮衝ハ此藥と用ふまハ其功實小正切無比かりと雖とも。是ま必しを小心せへこの法しして。敢て乱投胡措せらるらば。故小患者甚と少壯あるり。或ハ既ハ虚脱する者。知覺敏捷の人。殊ハ産婦ハ。此法と用ふるを禁し。○己ハ上歎不列舉する如く。此藥の諸病小効あると實ハ欣賞せへしと雖とも。其中或ハ其功害決し難と者も又之なま小非を。蓋し一時

七新藥 中卷 尚新堂 西石酸鹽話 七日

新法小瘳をるの風習小して。褒稱其實小適せざるを所らん。醫家別又心眼を注ひて以て其當否を斟酌せり。又他の乱投大患を惹くの害を免るべしと云

保催吐劑として之を用ふるの病百般かりと雖とも之を要する小。此藥の動もそれの吐逆を發せしめて却て下利を起し或は少吐を得んと欲して暴吐を發し。其惡心違和の症時として患者小幾般の苦惱を授け。之小由て或は原病の痊癒を妨る事あり故小。總て胃中小含有するの

物品を吐出せしむるの事小して。別又他功を須つゝもその時より更小此藥を用ふると要せし。吐根。皓礬及び其餘の諸劑皆其撰小代るべし。然とも爰ふ又吐酒石を催吐劑として用ひて。其功諸藥小勝る所の病症あり即ち尤の如し。内臟諸器の冒寒症。肝臟の分泌機障礙を受る者。胆汁湧出して腸胃汚物を生る者。及び腸胃の粘液夥多等総て催吐を要するの外。兼て肝。脾。腎等諸器の分泌を催進し。或は之を變革せんと欲するの症

回肺焮衝。胸膜焮衝。氣管支焮衝。咽喉水腫。咽喉焮

七 藥 中 卷
九 五
尚 新 堂 藏
衝。丹毒様。焮衝。血液溶崩症。眼焮衝。腺の焮衝様感
傷。乳房焮衝。横痃。腦焮衝等。總て其症焮衝。漿液滲
出等。不因て發し。而して大ニ身軀と震惕して神
經。血管ニ。一箇の大變化を受けしめん。と欲する
者。不あつて。肚腹多血の症。或。心臓及。大血管
ニ。形器性の缺損。なく。經久の便秘。積年の閉塞。か
く。卒中風の素因。頭腦。小血液上逆。するの癖。かけ
ま。之と吐劑として用ひて。良功あり。尚且つ。酒客
の震惕。譫妄。百日咳。諸般の肺病。喘息。咽喉の痙攣。
善性腫瘍。結節。肺勞の初期。不効あり。○蓋し。吐酒

石の此等の諸病ニ効ある所以。吾人明く。不之
と知ら。雖とも。恐らく。其遠達の功。を以て。神
經。血管の常機。を一變し。多少血液の成分。を變改
し。収斂。諸織の牽縮。を寛縱。する。不由て。以て。其効を
呈。する。からん。用法。ハ。催吐劑として。ハ。半。瓜。至。二
瓜。と。八分。時。毎。又。反復して。用ひ。之。を。散劑。小製。す
る。を。最も。良。と。或。ハ。又。溶劑。として。用ふる。を。あ
り。然。ま。とも。其。漸。次。の。量。一。次。小。崩。發。する。の。恐。何
る。故。ハ。長。く。之。を。持。長。する。を。禁。む。又。動。も。す。ま
い。腸。胃。の。焮。衝。血。液。上。逆。等。の。症。を。發。する。を。あり。

是を最も畏るべきの症なり。故に正小吐根を配して之を用ふる。小児に在ては殊に然り。若く又此を用ひて更なる嘔吐を發せんと欲す。微温湯を多飲し。羽毛を以て咽喉を刺衝し。刺絡浴湯を施して以て其運爲を助くる。或は又患者の知覺機甚に敏捷なれば小量を用ひて已に大吐を起す者あり。此の如き者は速に後服を停め。鎮降の諸薬を胃部に塗り。鎮吐散を與へ灌腸。浴湯の諸方を施す。○咽喉に異物硬塞せらる者。牙關緊急窒息假死等の症に在つては。薬方を用ふ

らの常路已に閉塞せり。正小之を灌腸法とし。或は静脉に注射し。或は之を内皮に傳ふ。殊に内皮法を以て最良とし。鎮降寛縦の効を要する。小の半片至一片を清水に溶解し。一時若くは一時半毎に之を用ひ。催悪心。祛痰發汗の効を須むる者。一片至二片を以て全日の量とす。必之と接骨花水。橙皮水。薄荷水。若くは蒸餾水に溶解し。用ふるを良とし。決して諸灰塩。諸酸。炭酸。諸塩。及び鞣質タンニの諸品に配せらるるを忌む。若し此禁を犯せば。藥質是より爲し分解せらるる寸効あり。

酒石酸鉍功用

酒石酸鉍ハ其分解消散の効を標的として之と尤の諸病小外用して良効あり。即ち腦膜焮衝、癩狂病、百日咳、喘息、慢性の氣管支、冒寒、慢性の喉頭焮衝、胸膜焮衝、肺勞、風濕毒、神經痛、麻痺、背髓痛、小用ひ、又單小其局發の効を以て、之を急慢性の荒蕪の潰瘡、慢性の皮膚病、白禿瘡、丹毒樣焮衝、諸腺殊小乳房の焮衝、急慢性の關節諸病、陰囊水腫、白腫、慢性の眼焮衝、陰囊焮衝、頭瘡、癬癩等小用ひ、又之を慢性癩或ハ其閉止をる者、白帶

下、潰瘡、癩瘡等小射注して効あり。用法ハ或ハ溶劑或ハ膏藥時ニ隨て之を撰むへハ其分量ハ作用の劇易を望むニ由て大ニ異かり。通例其効を強くせんと欲する者ハ十五匹至二十匹と一匁の清水、或ハ一匁の豕脂ニ和し用ふ。餘ハ類推を爲し○溶劑ハ之を膏藥ニ比するニ其功少く弱く、焮衝、疱疹を發するとも又多うらむ。然とも汚膩なきを以て用ひ易しと云。尤の方最も良あり

酒石酸鉍 一匁半

蒸餾水 四五

右調和し患部を洗ふ

酒石酸鹼銻中毒の救療法

多量の水液を以て胃を充満せしめ、羽毛を以て咽喉を刺戟し斯の如くして尚吐を起さざる時は檲皮揚皮幾那皮没食子等総て鞣質タニニと含んで此薬を分解せざるの性ある者の煎汁を飲しめ其毒已小中和性とあらば即ち粘滑の飲漿と與へ食道胃腸の患害へ油質劑阿片劑浴湯刺絡等の方法を以て之を治め中毒の症全く退去せ

るの後も尚攝生を嚴小し食飲を慎み遊運自適して身軀を艱ふと要す

酒石酸鹼銻の製劑

第一

催吐酒

アユラム、ステイビヤライム、アユラム、ステイビヤカリ、タルタリサテキム、アユラム、アユラム、アユラム、アユラム、ヒュクニヤミ

銻酒の扶苦散銻酒

催吐酒ハ之ヲ銻酒といふ和蘭局方小從ハ酒石酸鹼銻二十四分と上好酒十二分又溶和せざる者小して此液一分又二分の吐酒石を含む緩催吐發汗利尿揚奮の効あり催嘔劑として皮膚疹風

七新藥 中卷 酒石酸鉍鈣 廿六 七新藥

濕毒、冒寒等小用ひ、兼て其發汗祛痰の効を賞に、
催吐劑としてハ小兒及ハ薄弱の人ニ妙ナリ。貴
重の諸器、炊衝様の感傷ある者ハ之を用ふるを
禁む

用法ハ催嘔、發汗、祛痰の諸劑としてハ、一匁至四
匁を用ひ、小兒ハ二十滴を用ひ、催吐劑として
ハ半匁至一匁、小兒ハ一了至二了を用ふ

第二

酒石酸鉍鈣膏

ユングエンテム、タルタラス、ステイビュカリ、ユング
エンテム、タルタラス、ステイビヤテ、ユングエンテム、タル
タロエメテオス、ステイビヤテ、ユングエンテム、ラウ
テリテイ、發疹膏、浩天利膏

和蘭局方ニ從ヘハ、酒石酸鉍鈣一分と家猪脂六
分、小和をる者ナリ。激府局方ニ從ヘハ、半匁を以
て家猪脂二匁と和を是甚と強劇ニ過ク。正ニ
前方を以て良とをへ

用法當否ハ上の酒石酸鉍鈣の外用條下を參考
をる

七新藥 中卷 酒石酸鉍鈣 三十 尚新堂藏

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

第四篇

補血強神解熱之藥

規尼 キニム 解熱塩 〇幾那塩 キニム

規尼ハ幾那皮より出つる者なり。此物他の諸品
聖革尼シニコイ子規餒實キイ子革埜等コデイ子と相並て。幾那樹の皮中
在り以て其成分をか。キナハ伯刺西里ブラミリ國名の方
言解熱の藥方と稱と。故に資て以て之に名くと
云ふ

規尼ハ灰白の樹脂様物なり。乾白堅固の後變

て輕稀の粉末とる。味甚と苦くして、香臭共と
かく。水と溶解せし酒精も溶解し難しと雖と
も、其量多けし則ち溶解し、紅變したる青紙を
還元し、諸酸と合へり結て一箇の晶塩とふは
規尼の強神解熱の効の卓然至大にして高く、百
藥も復絶し、他の諸品も其門牆を窺ふと能
し。幾那皮の世間も貴稱を得る所以も、亦此物の
存在とる由るものと、嗚呼規尼は是を萬病の寶
丹にして百藥の君長とる乎。左件の所説以て其
聖効と知るべきかり

規尼一凡の功用利害

第一 健康作用

以皮膚も攪布して少しも變化と生るるとも、
若し其品清浄にして其量も亦夥多ふれり。唯少
しく之と刺戟するも似たり。然るとも皮膚能く
之と吸収するや否や、其機微にして見ることも能
し

呂小量^{一ニ}を用ふまは、其苦味も由て口中を刺
戟し津液の湧出を促進するのみ。別も較著の症
状を發せし、又或は之を用ひて脉搏を増し、發汗

と促し。神思揚發するにありと云へり。○小量と長服をれば消食の機少く不和を覺へ。胃部と温熱。疼痛を覺へ。悪心。嘔吐を發し。動もすまひ。頭痛眩暈。耳鳴寒戰。下利。疝痛。悸動等の症こもく起る。是れ規尼の消食機及び神経系を侵すものにして。其漸積の量一時に運爲して以て此般の諸症を發するあり

〔波〕大量二十六至と用ふれば。初め先づ口。喉。胃。腸。小局處の作用を起す。即ち咽喉乾燥して緊約せらる。う如く。胃部熱痛を覺へ。嘔吐下利。全身

發熱し。漸々小して患者衰弱を覺へ。憎寒し。視聽共小衰へ。上よ記を所の諸症陸續として次ぎ來り。其症恰も麻酔毒小中るう如く。瞳孔の縮張常度なく思慮混乱し。譫語を發して狂燥し。或は昏睡し。随意の運動を爲すを能はば。筋肉震惕し。皮膚知覺を失ひ。寒冷とあり。脉弱小して不同。動もたまひ。耳聾眼昏。四支癱瘓等と殘ると雖とも。此症太抵二三時小して止む

〔仁〕極大量三了了至と用ふまは。精力一次小沈衰し。眼華昏闇小して物を見るを能はば。瞳孔散大し

昏々として熟睡し。随意の運動を爲せし能はし
遂に搐掣小由て斃る。死後屍を開ひて之を驗せ
れり。其變狀麻酔毒小中つて死せる者の如く。血
液變じて闇黒となり凝固せしめて流動を

第二 醫治功用

以酸敗液。飲食不消化。胃脘痛等も効あり
呂血液衰乏して水質を含む者。及び此より發し
る諸病。萎黃病。壞血病。經久の脱血。下血。水腫殊小
其間歇熱後小發する者。又虚脱の人。痛風と患ふ
る者も効あり

波 佝僂病。瘰癧殊小其勞熱を兼ねる者。惡性の流
行病。赤斑熱。痘瘡。發黃熱。疫熱等も効あり。但し之
と用ふるや皆其末期小於ては。是も其強神解熱
の功と脩めんり爲かり。然まとも其病の初發已
小虚脱小陥る者へ此例も非を

仁 亞細亞霍乱小神効あり。最も其初起病勢猖獗
小して駸歩迅疾ふるを。一次も頻挫ふる小至て
り。實も百藥無比と稱をへし

司馬子曰く朋百氏謂く。夫れ病性の百疾の因
依る所小して。世期と追て克く轉換ふる者

かり。醫家の治方と施をや。必を之に注目せん
 ことを要し。三十年前の世界一凡の疾疾悉く其
 性と血管系機運の亢盛に託を。是故に百病皆
 消炎の療法を先し。亞細亞霍乱の如きも。亦
 刺絡吐下等の法方を行へり。今や運改り星轉
 せ。病性悉く復た在昔の神經性兼腸胃性に歸せ。此
 病の背髓系刺戟の甚劇小起る者あり。規尼の
 克く大功と奏をるへ。蓋し又理の當然思ふて
 能く得へし者あり。予我邦の諸君と視るに。動
 もをまひ此病に放血と行ひ吐瀉と施し。普歇

蘭度氏の遺方と稱して。以て患者を萬一に救
 さんと欲を何そ其偏固なる。抑病性小從て治
 方と議をるに。既小普氏の論せる所あり。今其
 書と讀て其意に達せし。其方と學て其時を察
 せし。却て普氏として冤を千載に抱りしむ。予
 又爰に一大長息をへさかりと。嗚呼諒あるに
 か此言世の學者其ま少く意を留よ
 保 虚脱の人梅毒を患ひて經久なる者。殊に其勞
 熱と兼ぬる者。經久の麻痺病。背髓勞。尋常の脱疽。
 病院脱疽等小効あり

七世新藥 中卷 規尼 尚新堂藏

邊 肺勞消渴病。粘液漏。氣管支の冒寒等。分泌排泄の機大に亢盛し過る者も効あり

登 殺虫劑として腸虫を用ひ。殊小其より發する冒寒様諸病も効あり

知 規尼の間歇熱。神經熱。痙攣及び神經性諸病。麻痺諸病も。聖効あるは其作用全く一種固有にして。悉く洞曉するに能はんと雖とも。精細に之を考察をまじ。其病間歇の性あり。時日を追ふて來止まる者なれば。規尼の力愈強く其効愈切かり。今正に左の一の病症を列舉せんとす

〔イ〕 間歇熱の其何性とするを論せむ。皆規尼を以て聖藥とす。故に之を捨て又外に求むべきの品なし。蓋し間歇熱は良稱あるの品。其數多かりざるは非すと雖とも。要するは皆其功害疑ふべく。或は其品峻毒にして容易に之を用ひ難く。或は其物平穩にして功理常は確切からん。規尼の克く無畏安行にして。其功の百發百中なるは如くされはかり。○間歇熱は規尼を用ふるは。常は其免熱時小於てをへし。其他時を以てするを要せし。是れ即ち輓今高尚の

七世新藥 中卷 規尼 此六 尚新堂藏

學説ふ由て定まる所ふして、規尼の効此際ふ
最も確切かり。然きとも又時として、此例よ
従ふへうらさるの事故あり。則ち炎熱の諸國
他の雰霽腐陳の瘴氣ふ由て發する所の悪性
熱、其再發作あらしめ、患者の性命必を保全
をへうらさる等、極危殆の症狀ある者、其發
熱時ふ於て大量以上の規尼と相次て用ひ、以
て其熱と截絶するを要し。○規尼の實ふ此病
ふ効ありと雖とも、其之と施用するは當て、
能く注意して合併の諸症と減却し、而して後

ふ用ゆるを要し。殊に内部の貴要諸器は、激衝
克血、刺衝機旺盛等の候あり、或は腸胃汚物の
症ある者、預め之と剋治せむ、あるは、
らん。然れとも、其合併諸症も亦能く之と精細
ふ。考察するを以て、醫家の一大要事とふん。何
とふまゝ吐下、滌除の藥劑と投ると雖とも、其
合併症更ふ減退せむ。規尼と施用するは及て、
本病と共に脱然として消散するを、屢こまわ
まゝあり。○間歇熱は多く併發する所の肝脾
の腫大は、規尼と用ひて大に効あり。クロー
人名

の説小曰く。予嘗て此症又十五人の規尼を一
次又用ひ三分時を過るの後、其腫大の減却を
る直ち又手と以て按し試しても、著しく知る
へと小至まりと

司馬子曰く間歇熱又規尼を用ふるに、諸説
紛々として未と一定せんと雖とも、要する
小舌苔。胃部胞脹等の假症又迷ふて、之を停
むるにありとへし。又時として、幾那皮規
尼又勝るにありと雖とも、是き唯胃の知覺
機甚しく亢進せるの時又在るのみ、蓋し此

時小當てハ幾那皮も亦害かるとせむ

口諸般の間歇性神經諸病、神經痛、痙攣、心悸動、
往來寒熱及ハ喘息、呼吸困苦等の間歇性を挾
む者、規尼を用いて効あり、是れ此般の諸病、多
くハ背髓系の刺戟を受る小、起因をれハかり
ハ刺戟及ハ充血の諸病、加之諸部の^{カニエラ}焮衝、出血
病等の間歇熱性を挾む者、或ハ其病時日と定
めて齊整小發歇する者、或ハ神經系の機能著
しく障碍を受け、精力一次又沉降し痙攣疼痛
並ハ起る者小効あり、故に其功を擴めて之を

腦焮衝。肺焮衝。義膜咽喉焮衝。眼焮衝。咳血。皮膚
瘡痒等。不用。

〔三〕神經性諸病。其間歇の有無に關せし。總て背
髓系の刺戟に因て發する者。癲癇。舞蹈病。百日
咳。咽喉痙攣。癱瘓。不遂。筋の痙攣。牽縮。及び心臟
の形器性諸病。不用。

〔ホ〕風濕毒。痛風等。其發作間歇ある者。衰弱。纖柔
悪液質の人。發する慢性焮衝様の諸病。瘰癧
性眼焮衝。癒て後殘遺する所の疼痛。大小効
あり。

〔一〕神經熱及び其般の諸病に。強壯劑として
之と唯其末期に用ふるのみならず。又其初發
病未だ十分發達せざる者。解熱劑として用
ひて殊効あり。特其のみならず。百般の熱性
病。血管系の刺戟太甚ならん。或は其人衰弱せ
る者。之と病の初期に用ひて。其熱を掃ふこと
恰も響の音に應ずる如し。

夫は規尼の幾那皮の中よりありて。他の諸品と共に
其成分をなす者なれり。其効も亦幾那の如く
からん。幾那を用ふるの病。皆規尼を用ふるを

得へし。然るも人特り此品と貴て、其効幾那の上
小在りと云ふは、何ぞや。蓋し規尼の之と用ひて
胃を害するも、幾那より少く、小量を用ひて
幾那の大量より其効強く、規尼の一二は能く幾
那皮の五六了小當まいかり。尚且つ之のよから
ま、其解熱強壯の効と以て、神經機を鎮静し、血行
と調理し、寒熱を變動する等、實に幾那皮の及
ぶ所より非をといふ

第三 規尼と用ふへりらざるの症

規尼の用否は、既小之と其病症小就て之と論せ

りと雖とも、尚反復して之と謂へ、總て左件の
諸症は、皆之と用ふへりらざるを即ち
以、消食器械の刺戟、焮衝、及び其形器性、缺損あり
者、用ふると禁む

呂 腹内諸器の真焮衝、熱病焮衝性と挾む者、腸小
潰瘡ある者、惡液家小發する熱病、及び其大衰弱
虚脱の人、發する者、用ふへりらざる

波 急性天行の瘡疹病、血中膿液と交る者、産婦小
發する焮衝病、神經の知覺非常、敏捷なる者、内
臟の閉塞、或は硬結腫の經年頑固なる者等、小

規尼と用ふへりらん、尚其他の禁忌の如きは健
康作用、醫治功用と参考して、醫家宜しく商量を
外用と規尼と用ふるの地、甚と尠か、唯其病障
碍ありて、内藥と用ふへりらざる者、灌腸劑と
し、或は内皮法として、其汎發の功と達せしむる
のみ
夫を規尼の其施用の標的、小從て、各分量と別と
せざるへりらん、故に通常これを以て強壯の功
を収めんと欲せり、四匁至六匁と全日の量とを

と、然るとも單小之と強壯劑とし、用ふるは稀か
り、○間歇熱、小の免熱時、小於て、十二匁至十四匁
と用ひ、悪性危劇の者、小の免熱時と發熱時と小
論なく、一匁或は尚多量と用ひ、以て性命を救ふ
へし、又輓今の人關節風濕毒、心囊激衝及ひ其餘
の神經諸病、半匁至一匁の規尼と用ふる者あり、
然るとも此方甚と危し、用ふるは又足らん、○規
尼の之を溶劑として用ふるは、通常其功確小して
且つ疾、丸散、小優るて、ハカ小遠し、故に之を溶劑と
ふると良とん、然るとも又症、小從て丸散劑と作

らさるへくらさるの地あり。若し然る時の桂椒。菖根。龍腦。阿片。炭酸銹等と配し用ふ。其苦味を褪せらるる白糖の少しも効なし。唯茴香。纈草等の香竈薬を一盞の濃煎茶に浸し。規尼と服するの前後之を飲ましめ。且つ之を以て含嗽せしむべし。是を苦味を除くの最良方なり。○亞細亞霍乱の。唯其用法の善悪は由て。病の治不治と致さる故也。精密小之と斟酌商量せらる。蓋し其人小存せらるると。然るとも通例三十人の量と二時間小服盡せしむるを以て其定規とせん。若し此

量と服盡して。其病即ち抗拒の良機と見とられ。是れ其症太抵危殆あり。故に規尼の量は一日にして六十人を用ふべし。

司馬子曰く亞細亞霍乱ハ。一異雰毒の瘴氣小由て起る者にして。邦俗之を虎狼瘡と云ふ。文政の末年。初めて東印度の河濱に起り。爾後次て全世界に瀰蔓し。遂に我邦に來り。安政年間此病大に崎嶇し流行し哭泣衢に充つ。當時の明府岡部某君惻然の至り小堪へず。我師蘭疇先生小謀て和蘭の授教師。海兵部醫官。兼日本

地方格致任員、魯西亞帝御賜章位、忠義連社、海
外列邦學社會盟、首府侍臣、玉函ヨハン涅朋百漢ハン茂耳
堉兒ゲル、ホル高爾德氏、小諮詢、醫局と開いて、大又病
者、又賑給を、規尼と費を、百瓶一、二瓶と容る、治と
仰く者、殆と千人、又及へり、而して、其中死を、る
者、僅小十分の二、小足らん、傳へて、以て、美談と
ふ、いと云ふ、今爰、小醫局、小於て、當日用ふる所
の方藥數、歟と記して、以て、異日の考證、小備ふ。
即ち、第一方、硫酸規尼十二、吐根五、甘草末適、右研
和、一四包、二分ち、二時間、又服盡せしむ、輕易の

症、い之と用いて、足まりと、以、第二方、硫酸規尼
一、阿芙蓉液三十、忽布滿鎮痛液六、五、蒸餾水一、半
右混和、一四十滴、至六十滴、と米麥の煮汁、一盞
小和し、半時、毎小服、さしむ、第三方、硫酸規尼一
甘汞三、硫酸莫非半、右研和、一四包、小分ち、二時
間、小服盡せしむ、第四方、硫酸規尼三十、龍腦三
忽布滿鎮痛液三十、上好火酒五、右混和、一三十
滴、至四十滴、と米麥の煮汁、小和し、半時、毎小之
と服、さしむ

既小之と醫治功用の條、小論を、る、如く、規尼ハ

百般の諸病に於て、其用甚と廣汎なる故に、悉く其用法分量を擧ぐるに能く、唯時小臨て人々得て之を商量すへとの事。若し之を溶劑として用ひんと欲せり。須く忽布満鎮痛液若くは上好の火酒及び少許の硫酸を溶し、而して後之を薬液に和勻せしむ。又胃の知覺機敏捷に過ぐる者へ、之に阿芙蓉アムストルダム或は苦扁桃を加へんとを要し。和蘭の首府安私多爾アムステルダム當地の醫院大教頭、コベール氏、劇盛眼焮衝ノ風眼ノ類の神經性小陥り、其疼痛劇甚にして間歇の候判然とる者へ、左方と創製して

之を用ひ大小其良効を稱し、予之を試験せしむ。既小六回其功實は神の如し。

方

硫酸規尼 三十ル

清淨阿片 三ル

甘草末 十ル

右研和し散とせし十包に分ち、一時毎に一包と服せしむ。

十新藥 中卷 四十四 尚新堂

規尼各般の製劑

第一

純規尼 キニニウム、プリュム、ギニナ、プユラ

白色無臭の塩あり。水に溶し難く、酒精に溶解せむ。故に醫藥に供せむこと甚少。唯苦味稍微あるを以て、時として之を小兒の諸病に用ふるのみ。

第二

硫酸規尼 シユルラス、キニキユス、バシキユス、キニニウム、シユルラス、キニニウム、シユルラス、ス、ビキラキユス

雪白疎鬆針状の小晶塩あり。香臭共ふなく。味甚と苦く、日光に遇ふて褐色に變し。紅變の青紙を還元せむこと能ふ。七百四十倍の冷水三十倍の温湯に溶解し、酒精にも亦容易に溶化を、若し少許の硫酸を加ふと、之は由て其中性とあり。冷水に溶解せむこと甚と易し。其用法禁忌の如きは既述を上に論せり。故に爰に贅せむを要せず。

シユグロス 名 此塩を用ふるの一新法を創め、之を以て其遠及廣達の功、復に内服に優ると稱せ

二行 見 二 一 尚新堂

り。即ち其法ハ此塩一匁を忽布満鎮痛液一匁を溶解し。毛筆を以て之を齒齦。頰内。咽喉に塗擦し。斯の如くすまハ其甚苦味ハ由て劇盛の流涎を發し。之ハ由て背髓ハ其効を達し。以て間歇熱神經病等ハ大効ありと云ふ

第三

塩酸規尼

キニニウム。トリリアアテイキウム。オキニニウム。ヒドロ。ゴロラエム。

白色針状の小晶塩あり。味甚々苦く。三十倍の酒精ハ漸く溶解し。熱湯及ハ冷水ハ容易ハ溶解し

此塩ハ其用前物の如く廣うらと雖とも揮發利尿の傍効あり。且つ胃を害する甚うらとるを以て。大量の規尼を用ひんと欲するの地ハ能く適應也。然れとも其功別ハ前物ハ異なる非也

第四

醋酸規尼

キニニウム。アセテキウム。アセタス。キニニ

晶體の小針ハ光澤あり。冷水ハ溶解難く温湯ハ容易ハ溶化也

第五

砒酸規尼 ○キニニウム、アルセニコーシウム
○アルセニウム、アルセニウム
白色の晶塩あり。水に溶化し難し。規尼砒酸と直
ち結合せざる者あり

第六

磷酸規尼 ○キニニウム、フラスマリキウム
○フラスマス、キニニ
無色玲瓏の小針にして真珠の如き光輝あり。冷
水及び酒精に容易に溶解せ

第七

酒石酸規尼 ○キニニウム、タルタリキウム
○タルタラス、キニニ
白色にして光輝ある四面柱の小晶針あり。冷水

に溶解し難く温湯に溶解し易し

第八

沃顛酸規尼 ○キニニウム、ヒドロイラヂイキウム
○ヒドロイラダス、キニニ
褐赤色無晶の粉末にして冷水に溶解し難く酒
精等に容易に溶解せ

第九

硝酸規尼 ○キニニウム、ニトトリキウム
○ニトラス、キニニ
白色苦味無晶の粉末あり。水に溶解し難く酒精に
溶解し易し

第十

鐵加青酸規尼 ヒドロシアナス、キニニ〇キニニ
黄緑色の小針簇つて不齊の晶と結ひ。酒精小溶
け易く冷水に溶け難く温湯小由て其質を解析
せらふ

第十一

青酸規尼 ヒドロシアナス、キニニ〇キニニ
黄色の水液あり。甚しく青酸の臭と發を

第十二

鐵加拘椽酸規尼 シタラス、フェルリ、エト、キニニ〇
キニニニ、フェルロシトリキニニ
此塩の四分の拘椽酸銕、一分の拘椽酸規尼より

成る者小して。闇赤色。晶體鱗狀の鱗片あり。味極
めて苦し。冷水及び酒精小容易に溶化を

第十三

拘椽酸規尼 シタラス、キニニ〇キニニ

白色晶體の塩あり。水小溶解し難し。拘椽酸曹達
と以て硫酸規尼を解析する由て成る。カニ
ト及びマニキニニ 人名大 此塩を稱して
曰く。此塩は耳鳴頭痛等と起るの憂いなく。甚と
焮衝性の諸病小用ひ易しと

第十四

七新藥 中卷 四十八 治新堂

鞣酸規尼 キニニウム、タンニキウム、タニナス

白色にして蠟屑の如し。冷水に溶解せし

第十五

纈草酸規尼 キニニウム、アレリアニキウム、アナス、キニニ

無色斜方の小針晶にして大に纈草酸の氣あり。冷水に溶け難く温湯酒精等に容易に溶化を

第十六

幾那酸規尼 キニニウム、キニキウム、キナス、キニニ

白色細微の小針集て節状を成し。風に遇ふて獸角様小變し冷水に容易に溶化を

第十七

乳酸規尼 キニニウム、ラクタイキウム、ラクタス、キニニ

節状の晶體にして光澤あり。冷水に溶解し易し。斯の如く規尼の製劑數般にして。各其殊効を稱褒と雖とも。是を皆輒今新奇を好むの流弊にして。此中醫藥に供をへき者。特に硫酸塩酸の二品の。其餘に悉く繁刺無益の品物にして。更に任用に堪ざる者あり。斯の如き新奇の刺藥世に出で實用に適せざる。予既之を沃顔の條に論せり。藥室の美觀を存する。豈醫道の本旨か

治新堂

らんや。世の學者新説は惑溺して謾は多品を募
召せるとかくんは則ち可あり

附録

撒里質 サリシニム○サリチニム

此塩は白色小針状の晶體なり。味極めて苦く。
二十二倍の冷水半倍の温湯三十倍の酒精は
容易に溶化す。此物の水楊樹の皮中に在り。以
て其成分をかき。サリキスハ羅甸の語にして。
水楊樹と云ふ。故に資て以て之を名くと云ふ。

文政八年 西國紀元千八百二十年 ホンタン 人名 初めて之

を檢出し。後三年を経てレロキス 人名 之を精

製す。以て醫藥に供せしより。以來其用大に廣

まり。動もそれの之を以て其解熱の功規尼小

勝るの説と唱ふる者あり。蓋し其効實小斯の

如き小至らざるも。規尼の幾那皮は出つるに

本是を海外遠來の品なれり。偶其缺乏小遇す

ざるに能はば。水楊樹の如き各國各地これ

かきの處あり。人々得て以て撒里質を製すへ

けきは其益又大なりと云ふ。附録の起るは蓋し

二 芥 藥 中 卷 撒 里 質 五 十 一 尚 新 堂 藏

之小由る

撒里質の健康作用ハ。未ト詳カラシト雖トモ。醫藥としてハ。總テ規尼を用ふべきの病ハ。皆撒里質の的症ナリ。而シテ規尼の如ク血管系と刺戟セシ。又胃と害スルコトナク。此藥を以テ規尼ハ優ると云ハレ之ヲ爲ノモ。故ニ間歇熱殊ニ其粘液質の人。惡液家衰弱の人。及ヒ再陷の癖ある人ニ發スル者。間歇性の神經病。及ヒ神經痛。飲食不消化。慢性の下利。氣管支及ヒ其餘の粘液膜の冒寒諸症。腸胃。肺等諸器の粘液

膜の衰弱諸病。呼吸器の痙攣性諸病。百日咳。喘息。粘液熱。萎黃病。白帶下。瘰癧性の眼焮衝等ハ。撒里質を用ひテ効アリ。又輓今の發明法ニ由ル者及ヒ頑固の腔粘液漏等の諸症ハ。此藥一ハ至三ハと内服セシメ。一カ月と清水一カ勺小和シ之と射注シテ大ニ効アリ

用法ハ間歇熱ハ。十二ハ至四十ハと一日數次ニ用ヒ。他の諸病ハ。一ハ至三ハと一次ニ用ヒ。又症小從ヒ一二ハと全日の量ト云ハレ

七新藥中卷
中卷
五十一
新堂

わ川。散劑と最も良とい。規尼の條小列舉せる
諸藥と伍して之を用ふを

七新藥中卷 畢

